

花

主宰詠



花を待つ恩送りとは佳きことば
花を待つところにちさき火を継いで
ふるさとにちちははのなき桜かな
むすびの地まで水に沿ひ花仰ぎ
はるかより来合はせてこの花の下
旅人のしばし杖置く桜かな
ゆふべには花じめりして緋毛氈
花の夜の天守へつづく石畳

無断転載禁止

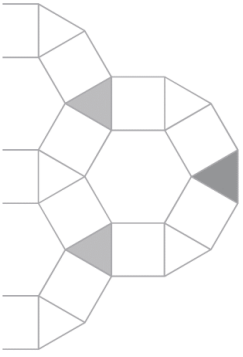
2



入会のご案内



高田正子



足音のやがて落花に閉ざさるる
誰を待つともなく花の川湊
花を漏れくる灯に舟のゆきちがひ
やや遅れ舟の着きたる朧かな
ゆきあへるふるさとびとや橋朧
ふるさとにゐてふるさとの花の夢
一晩の落花に埋もれ盥舟

